

私の考えるスポ健の  
**博士力**

国際的に活躍できる  
スポーツ科学者へ



## アスリートが運動パフォーマンスを最大限に向上するために

日本学術振興会 特別研究員 PD

**角 大地**



### let's access

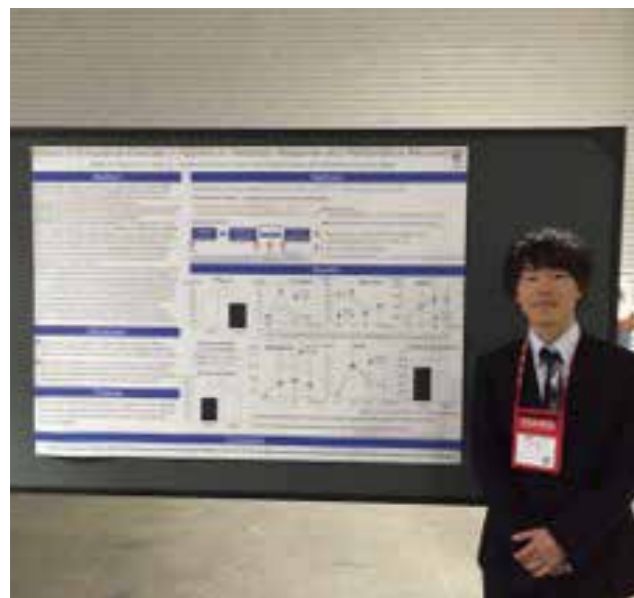


この QR コードを読み取ると  
インタビュー動画を  
視聴することができます



この QR コードを読み取ると  
博士学位論文に  
アクセスできます

学位授与の年月	2020年3月
学位論文のタイトル	低酸素環境下での持久性運動がコンディショニング関連指標に及ぼす影響
指導教員名	後藤一成
研究領域	トレーニング科学
キーワード	持久性アスリート・パフォーマンス向上・特殊環境



学位取得を  
目指した  
きっかけ

**ス** ポーツ競技に取り組む中で、競技力向上に有効な科学的なトレーニングやコンディショニングの方法に強い関心を持っていた。そこで、合理的なトレーニングおよびコンディショニング方法をスポーツ科学の視点から専門的に学ぶことを強く望み、立命館大学スポーツ健康科学部に進学した。そこで、トレーニング科学をご専門とされ、国際的に活躍されている後藤一成教授の下で博士学位の取得を目指し、スポーツ科学のプロフェッショナルとしてアスリートに携わることを目指した。

在学中

**日** 本学術振興会特別研究員 DC2 に採択され、研究奨励金および研究実施のための研究費を支援していただき、研究科の先生方のご指導および最新鋭の設備にも恵まれ充実した研究活動を実施することができた。さらに、座学や実験室でのデータ収集の「理論」のみならず、実際のトレーニング現場でのデータ収集や様々なスポーツ競技者の競技力向上に対する科学的サポート（実践）も行ってきた。また、海外の国際的に著名な先生方との交流も多く、研究ディスカッションなど貴重な経験を数多く経験した。

学位論文では、低酸素環境下での持久性運動がコンディショニング関連指標（筋損傷・炎症および鉄代謝応答など）に及ぼす影響を検討した。本学位論文は低酸素トレーニング時における留意点を明示する一助となり、複数の研究結果が国際誌に掲載された。

現在

**博** 士学位を取得後、日本学術振興会特別研究員 PD に採択され（2年目）、大阪市立大学や立命館大学にて低酸素環境や暑熱環境での運動に対する生理応答やトレーニング効果の研究に取り組んでいる。近年、地球温暖化の影響や多くの主要国際競技大会（オリンピックなど）が夏季に開催されることにより、「暑熱環境」に関する研究が盛んに実施されている。立命館大学および大阪市立大学には環境制御室が設置されており、暑熱環境に関する研究をこれまで以上に進めることができている。さらに、企業研究に積極的に携わり「大学での研究」とはまた異なった研究理論や概念を学修している。

将来像

**以** 下の2つの能力を備えた研究者（スポーツ科学者）を目指している

1. トレーニング現場における疑問の解決および要望に応えるための高度な研究遂行能力を有し、国際的に活躍できるスポーツ科学者
2. 研究から得られた知見を、スポーツ現場に還元・発信できる実践力を備えたスポーツ科学者

**これまでの概念にとらわれず、自由なチャレンジを！**